

「脱ムダ」で市政を変える！ 市政改革を前へ、前へ
小金井市議会議員／情報公開こがねい

週刊 渡辺大三 NEWS



【会派 NEWS】 2020(令和2)年 11月26日 週刊 vol.66
【ご意見ご要望はお気軽に】 〒184-0012 小金井市中町3-26-15-301
T 090-3345-6929 F 042-381-5074 watanabedaizou@gmail.com
公式サイト daizou.org (Twitter、facebook には公式サイトからアクセスできます)

浸水対策「必要ないと思ってた」

庁舎及び福祉会館 設計見直しへ

盛り土などで、さらに建設費拡大か？



※浸水深とは・・・洪水・津波などで浸水した際の、水面から地面までの深さ。

想定「浸水深」の変更に関しては、昨年10月に総務部地域安全課と企画財政部庁舎建設担当の間で情報の共有化が図られたようですが、その時点では設計における浸水対策の必要性について認識を持たず、そのまま放置。結局、今年3月に、なんら対策を講じない内容で、変更前の「浸水深」を前提とした「基本設計」が納品されてしまったのです。つまり「欠陥設計」ということです。

その後、西岡市長は、今年6月に、欠陥設計を前提として「実施設計」を発注。その段階でも、想定「浸水深」の変更への設計上の対策の必要性は認識されていませんでした。

私の聞き取り調査によれば、ようやく必要性が認識されたのは、新たな想定「浸水深」地図が掲載された「小金井市防災マップ」=写真=が納品された今年8月以降、具体的には、今年9月になってのことだそうです。なぜ今回は「認識」したのか・・・は明らかにされていません。

あきれて物も言えません

「あきれて物も言えない」とは、まさにこのことです・・・。

11月19日に開催された市議会の庁舎及び福祉会館建設等調査特別委員会で、西岡市長側は、東京都が策定する浸水予想区域図が改定され、小金井市の庁舎建設予定地の想定「浸水深」に変更があったことから、庁舎及び福祉会館の実設計において対策が必要になったとの認識を示しました。

市民や議会にも「隠ぺい」

これだけ重大なことを見落としていたのに、市議会への報告は、冒頭に書きましたように、11月19日。それまでの約2か月間は、市民に対しても市議会に対しても、重大な判断ミスの実

を「隠ぺい」していたわけです。11月19日は、「隠しきれなくなった」から報告したものだと思われる。

西岡市長側によれば、この想定「浸水深」変更を設計に反映させる必要があることから、実施設計のスケジュールに遅延が生じることになりそうです。また、私の聞き取り調査によれば、盛り土などの工事が新たに必要になることから、建設費に関しては、さらに拡大することになるようです。

ただでさえ市長案は総額110億円を超える事業費となっており、市民や議会から批判の声が上がっています。判断ミスを隠ぺいして実施設計を進め、今になって「建設費のさらなる拡大」など論外です。認めることはできません。

都からの情報は・・・ 昨年6月に来ていた

では、いったいつ、小金井市は、庁舎建設予定地の想定「浸水深」変更の事実を知ったのでしょうか？

私は、11月24日、総務部地域安全課及び企画財政部庁舎建設担当に聞き取り調査を行いました。

その結果、東京都建設局河川部長から、小金井市総務部あてに、「野川、仙川、入間川、谷沢川及び丸子川流域 浸水予想区域図(改定)の公表について」という通知文書が来たのは、なんと令和元年(2019年)6月25日だということが判明しました。同通知には、変更後の地図を見ることができるURLも記されていたとのことです。

つまり、昨年6月時点で、小金井市は庁舎建設予定地「浸水深」変更を東京都から知らされていたということです。

昨年6月の時点で通知が来ていたのに、設計に反映させる必要性についての認識を持たないまま、欠陥「基本設計」を作成し、また、その認識のないまま実施設計を発注……。1年5か月も経って、ようやく市議会に報告……。本当にあきれてしまいます。

事実関係の解明に向け 本会議で追及します

本件について、私は、12月4日午前中の本会議(一般質問)で追及し、一連の経緯を明らかにする予定です。

小金井市議会公式YouTubeでも中継されますので、ぜひご覧ください。

「市民案」への転換で、建設費大幅削減を

あまりにもお金がかかり過ぎる西岡市長の庁舎及び福祉会館建設計画(市長案)に対して、市民団体(庁舎と福祉会館の建設を考える会)と専門家が共同で策定した対案(市民案)が注目されています。

市長案の欠点は、大きくは、①お金がかかり過ぎる(建設費84億円、総経費110億円)、②公園空白地域であるにもかかわらず、十分な広さの「ひろば」を設けない、③高齢者・障がい者・乳幼児なども多く利用することが想定される福祉会館部分に免震構造を採用しない(庁舎にだけ採用する)の3点あります。

これに対して「市民案」は、①建設費を62億円にまで抑制する、②陽当たりの良い庁舎南側に約3000㎡の「ひろば」を確保する、③福祉会館部分にも免震構造を採用し、大震災時でも大きく揺れないようにする、の3点が特長です。

いったん建設すれば50年60年あるいはそれ以上使っていく施設です。

現在の市民も、未来の市民も「笑顔」になれるような計画にすべきではないでしょうか。

私も「情報公開がねい」は、新型コロナウイルス感染症の影響で、今後5年間、小金井市は62億円もの減収という「崖っぷち」財政になることが見込まれるわけですから、大幅コストダウンの「市民案」実現に向けて、市民の皆様と力を合わせていきたいと思えます。ぜひ、署名運動等へのご協力をお願い申し上げます。

◆渡辺大三略歴◆

1966年5月2日、岩手県水沢市(現:奥州市)生まれ。秋田県横手市、宮城県仙台市、山形県山形市を経て、9歳から小金井市在住。小金井市立本町小学校・小金井市立小金井第一中学校(桜町)、東京都立小金井北高等学校(緑町)、中央大学法学部を卒業。株式会社河北新報社(本社:仙台市)に就職し、新聞記者。衆議院議員秘書を経て、男性最年少の26歳で小金井市議選初当選(以降7期連続当選/最近4回の選挙はいずれも無所属で立候補)。